

米林雄一展
—
李允碩展

Solo Exhibitions by
Yuichi Yonebayashi
and Lee Yoon Seok

2023年1月28日[土]
—2月12日[日]
12:00~19:00 月曜休廊



米林雄一《微空音-Ⅱ》1987-1992 Photo by TATSOKA



李允碩《Unfolded COSMOS》2006

会場 |
愛知県立芸術大学
サテライトギャラリーSA・KURA

主催 |
愛知県立芸術大学

企画運営 |
愛知県立芸術大学
彫刻専攻 村尾研究室

問い合わせ |
芸術情報・広報課 0561-76-2873
(平日 9:00~17:30)



1



2



3



4

1. 米林雄一《RECTANGLE》1980-2022
2. 米林雄一《田老残照》2014
3. 李允碩《foREST》2022 4. 李允碩《Vision》2014

本展は、東京藝術大学名誉教授の米林雄一氏と、氏に学んだソウル市立大学環境彫刻学科教授の李允碩(リー・ユンソク)氏によるそれぞれの彫刻展です。愛知県立芸術大学とソウル市立大学とは、今年度、交流協定を締結しました。これを機に李允碩氏を招聘し、交流展を開催する運びとなりました。

李氏の本展の主題は、ギリシャ語で「時」を意味するクロノス(Chronos)とカイロス(Kairos)。宇宙における定量的な時間と、変化への転換点としての「時」を表する李氏の作品は、抽象性と物語性を持った不思議な存在感を放っています。

米林氏の宇宙的な広がりを感じさせる作品は、観者の想念を、時空を超えた領域へと解放しながらも、今ここへ、と帰着に導く軌道を示しているようです。代表作の一つの《微空音-II》(1987-92)はじめ、初期の《椅子と机》(1974-76)、《CAT》(1978)を含む作品を展示し、米林氏の創造の軌跡を辿ります。

芸術講座では、両氏がそれぞれの自作を語るとともに、「彫刻と宇宙」について改めて考えます。米林氏は2008年に行ったJAXAとの共同研究の「宇宙モデリング」について紹介し、宇宙から帰還した手捻りの人形の現物をお見せするとともに、宇宙飛行士が無重力状態でその人形を作る動画を放映します。

長い年月を経て両氏が再会し、共に彫刻作品を響き合わせることは、二つの異なる軌道上の天体が一巡して重なり合うかのようです。様々な巡り合わせやタイミングがあってこそ実現できる本展の何かが、次の世代に受け継がれ、新たな軌道に乗っていくことを願っています。

愛知県立芸術大学彫刻専攻 准教授 村尾里奈
(本展企画者)



名古屋市東区東桜1-9-19
成田栄ビル地下1階
TEL: 052-212-9316
(地下1階エレベーターをご利用ください。)

地下鉄東山線「栄駅」より徒歩3分
地下鉄名城線「久屋大通駅」より徒歩7分

米林雄一 Yuichi Yonebayashi

1942年東京都生まれ
東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了(1966)
金沢美術工芸大学美術学科彫刻専攻卒業(1964)
「米林雄一彫刻展・宇宙への眼差し」飯山市美術館(2018)、「米林雄一彫刻展～宇宙へつながる彫刻」おふせミュージアム・中島千波館(2011)、「米林雄一退任記念展～微空からの波動～」東京藝術大学大学美術館(2008)、「第13回平櫛田中賞受賞記念米林雄一展」(1987)
現在、東京藝術大学名誉教授、愛知県立芸術大学非常勤講師、社団法人日本美術家連盟理事、社団法人二紀会理事、日本建築美術工芸協会理事。

李允碩(リー・ユンソク) Lee Yoon Seok

1970年ソウル生まれ
東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了(2003)
武蔵野美術大学大学院彫刻コース修了(1999)
ソウル市立大学環境彫刻学科卒業(1996)
「第24回UBEビエンナーレ」入賞(2011)、「第10回KAJIMA彫刻コンクール」銅賞(2008)、「第9回大分アジア彫刻展」入賞(2008)、その他韓国国内にパブリックアートを多数設置。
現在、ソウル市立大学環境彫刻学科教授(2008～)、環境彫刻家協会理事、基礎造形学会会員。



米林雄一展／李允碩展 記念対談
日時：1月28日[土]14:00~15:00
定員：15名(当日先着順)



グレゴリー・シャミトフ宇宙飛行士による「宇宙モデリング」の様子
「米林雄一彫刻展～宇宙への眼差し～」より